

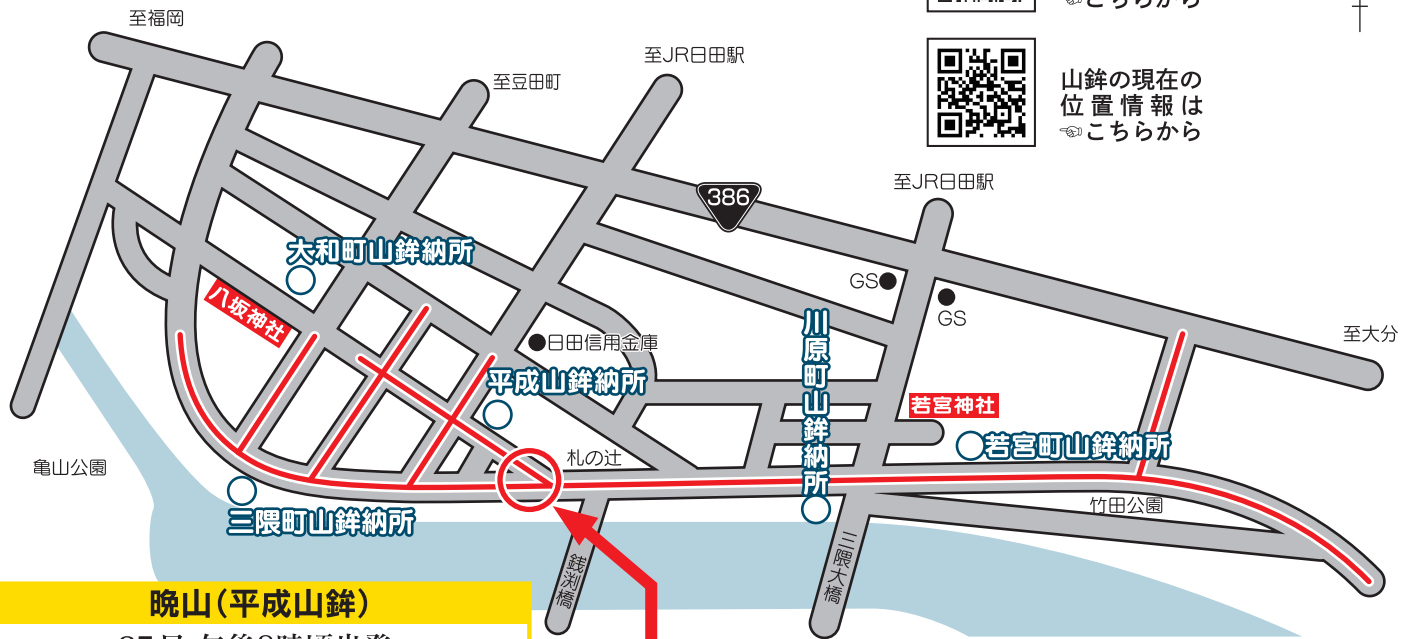
# 隈・竹田地区



運行予定の詳細は  
☞こちらから



山鉾の現在の  
位置情報は  
☞こちらから



## 晩山(平成山鉾)

25日 午後8時頃出発  
札の辻(折り返し)～黎明館  
八坂神社(折り返し)～納所

## 晩山(隈・竹田地区4町山鉾)

26日 午後7時30分頃 札の辻

### 【隈の起こり】

文禄3年(1594年)に、豊後日田・玖珠2万石の蔵入地代官を務めた豊臣秀吉配下の、宮木豊盛(長次郎)が日隈山(現在の亀山公園)に城を築き、その対岸に開いた城下町が起源です。

慶長元年(1596年)には、後に豊後佐伯藩の初代藩主となる毛利高政によって、現在の町割りの原型が作られたとされています。当時は、現在の中本町、隈1・2丁目を二重の堀と土塁で囲み、要所に木戸門を設けて朝夕に開閉していたとされています。



## 川原町

川原町山鉾の見送りには、厄払いの神様として知られる素盞鳴尊が剣を振りかざした姿の刺繍がされ、優美な姿を誇っています。

見送り『素盞鳴尊大蛇退治』  
平成8年(1996年)制作



## 三隈町

三隈町の山鉾は、町内の皆さんは勿論、町外から協力してくれる方々と一致団結して魂を込めて製作しています。特に提灯の明かりのついた夜の山鉾の趣を皆さんに感じていただきたいと思います。

見送り『龍』  
昭和60年(1985年)制作



## 大和町

大和町山鉾は、明治末期より使用されていた山鉾を、平成23年に高さ10mの山鉾で新調し、現在その山鉾で運行しています。今年の背面・側面を彩るのは、上横町(大和町2丁目)所有の見送り幕『岩上の虎』、水引き幕『龍』です。いずれも江戸末期に製作されたものを、平成19年度に国の民族文化財伝承・活用等事業により、江戸当時の製法で復元新調されたものです。祭典当日は、見送り・水引き幕を装着しての巡行になります。創建当時を思わせる荘厳で豪華絢爛な山鉾の巡行を是非ご覧下さい。

見送り『岩上の虎』  
江戸末期制作



## 若宮町

若宮町山鉾の助板には書道家千原艸炎氏に揮毫をお願いし悪疫退散の願いを込めた「祥風」の文字を彫り込んでおり、外題の力強い文字も同氏に依るもの。山鉾復活から47年、世代交代も進んでいますが、祭り好きの老若男女に市内外の助っ人も多数加わり酷暑に負けず伝統行事を盛り上げます!!

見送り『唐獅子』  
昭和58年(1983年)制作

